

アーバンフォレストの推進と都市樹木の管理

技術委員長 石井 匡志

当協会では「活力ある都市樹木と人材を育み、アーバンフォレストを生み出す」を掲げ、各委員会での議論と、会員の皆さまへの情報発信を行ってまいりました。世界では、気候変動による都市の高温化に対応するため、街路樹を含む都市の樹木の樹冠を大きくすることが重要な環境政策として進められています。日本においても、2020東京オリンピックを契機に「樹冠最大化」をキーワードとして、一部の街路樹で樹冠を大きく維持する剪定が実施されました。

日本の街路樹は高度経済成長やバブル景気を背景にして、日本各地の道路の延伸と対応してその植栽が進められてきました。東京においては、1964東京オリンピックの開催にあたり、環状道路など都心の道路整備が行われ、あわせて街路樹が植栽されています。その時期に植栽された街路樹は植栽から60年が過ぎたことになります。日本造園学会全国大会において街路樹研究推進委員会が主催したミニフォーラムでは、江戸川区の街路樹管理担当者と濱野周泰先生(元東京農大教授)が登壇され、私がコーディネーターをさせていただきました。そこで濱野先生から、甲州街道のケヤキの話題がありました。このケヤキは1964東京オリンピックのマラソンコースに植栽され、もともと甲州街道は田畑の中でしたが、オリンピック以降の都市化に伴い沿道が高層ビルとなり、ケヤキの生育環境は地上部も地下部も狭くなっていったということでした。東京の街路樹植栽は日本の中でも早く(古く)、東京を追いかけるように街路樹植栽が地方の大都市、中核都市に拡大していったことを考えると、現在の東京で起きている街路樹に関わる諸課題は5年後、10年後、30年後に、地方都市に拡大していくことは容易に想像できることであり、その入り口が見えている状況とすることができます。先の国土交通省の全国における倒木落枝に関する調査をみると、入り口の扉はすでに開いていると言う方がよいかもしれません。

私個人のことになりますが、2015年に「都市における街路樹の持続的管理に関する技術学的研究」で博士論文を納めました。ここでの結論は、剪定の適正化と植栽基盤の確保でした。技術学的研究とタイトルに付けたのは、街路樹管理における諸課題について、現場の目線から、現場における実験や調査により、それを統計的に明らかにすることにこだわったことにありました。



街路樹を含む樹木の剪定や根系に関する技術文章の中には、その根拠が明らかにされていないものがあったり、データが明治神宮の造営時代のものであったりと、アーバンフォレストという次の時代に向けた樹木の管理に正面から答えられない文章があります。また、予算の潤沢な時代であれば、現場技術者の経験が積み上がるため、経験則で正しく判断できることもあったかもしれません。職人的な勘と経験のみに依った判断からの脱却はアーバンフォレスト実現に向けた重要な要素と考えています。

技術委員会では約4年前から根系の切断に関する実証的な研究を進めています。これは根を切断した場合に切断面から発根する根の量を明らかにすることを目的としています。「根はどのぐらいの太さまでなら切っても大丈夫ですか」という質問をされることがよくあります。近年、歩道の根上りの問題をはじめ、共同溝設置に伴う道路の掘削、公園やマンションなどでも再整備に伴う掘削により、樹木の根が出てきた場合にどのように対応すればよいかについては課題となっています。予備的な実験から始め、切断面へのトップジンなどの塗布材の影響、関東ロームと大阪の真砂土による発根の違いについては、すでに樹木医学会に発表をさせていただきました。現在、ホルモン剤による発根への影響、九州における真砂土の影響、富山における山砂と黒ボク土の影響について調査を進めています。



アーバンフォレストの実現に向けて、また、日々の街路樹管理については多くの課題がみられます。技術委員会は今後もその解決策を明らかにするため数字にこだわり、情報の収集と自らの実証実験を進め、会員の皆さまに還元できるよう進めていきたいと考えます。皆さまのご意見もお待ちしております。



百の景の行く先：ランドスケープが都市・地域を変える

日本造園学会100周年記念全国大会の公開シンポジウムに(一社)街路樹診断協会が協賛しました。参加費無料の公開シンポジウムで、「百の景の行く先：ランドスケープが都市・地域を変える」と題して5月17日に東京大学安田講堂で開催されました。1000名収容できる安田講堂ですから集客数が心配されましたが、多くの参加者があり盛況な会となりました。



主催：公益財団法人日本造園学会
協賛：一般社団法人街路樹診断協会



東大安田講堂・会場の状況

シンポジウムは2部構成で、第1部はアーバンフォレストリーの第一人者として知られるブリティッシュコロンビア大学(カナダ)のセシル・コナイネダイク名誉教授による「都市の緑を再考する」と題した基調講演と「グリーンと自然の発想で都市を再設計する」と題したクロストークが行われました。クロストークは東京大学の寺田徹先生がモデレーターとなり、パネラーはセシル・コナイネダイク先生、東京大学の橋本禪先生、九州大学の高取千佳先生、そして街路樹診断協会の當内匡事業副委員長(株式会社庭樹園代表取締役・ISA理事)も登壇されました。

第2部は「ランドスケープを再考する - 都市・地域を変えるためにすべきこと」と題して4名の登壇者によりパネルディスカッションが開催され、ランドスケープ関係者は今後何をしていけばよいかについての話がなされました。

セシル・コナイネダイク先生からは、3・30・300ルール(家の前に3本の木+近隣地域には30%の樹冠被覆率+300m以内に公園などの緑地)の必要性や、各国のアーバンフォレストリーの取り組みなどが紹介され、日本も樹冠被覆率の目標を定めアーバンフォレストリーの推進を図るべきだとの話がなされました。

クロストークでは、當内匡事業副委員長から、100年前の日本の街路樹はアーバンフォレストリーと同じ考えで整備されたが、現在の街路樹はアーバンフォレストの重要な要素であるにも関わらずコンパクトに管理されていると問題提起がなされました。



クロストークの状況：左より、セシル・コナイネダイク先生、東大の橋本禪先生、九大の高取千佳先生、當内匡事業副委員長。モデレーターは東大の寺田徹先生がつとめられた

このシンポジウムにおいて感慨深く感じたことは、日本造園学会の場でアーバンフォレストリーやアーバンフォレストといった言葉が飛び交い、ようやく浸透してきたかの実感が得られたことです。街路樹診断協会としてこのシンポジウムに協賛した意義がありました。

(副会長・笠松滋久)

「グラングリーン大阪」における緑の環境価値の可視化手法

事業委員会 安田 卓宏



2024年11月5日(火)、「アーバンフォレストwebセミナー #07」をオンライン形式で開催しました。今回は大阪都心部の大規模な緑の空間として注目を集める、うめきた2期地区の開発プロジェクト「グラングリーン大阪」における緑の環境価値の可視化手法をテーマに、株式会社日建設計 ランドスケープ設計部 部長 小松良朗氏を講師にお招きしました。

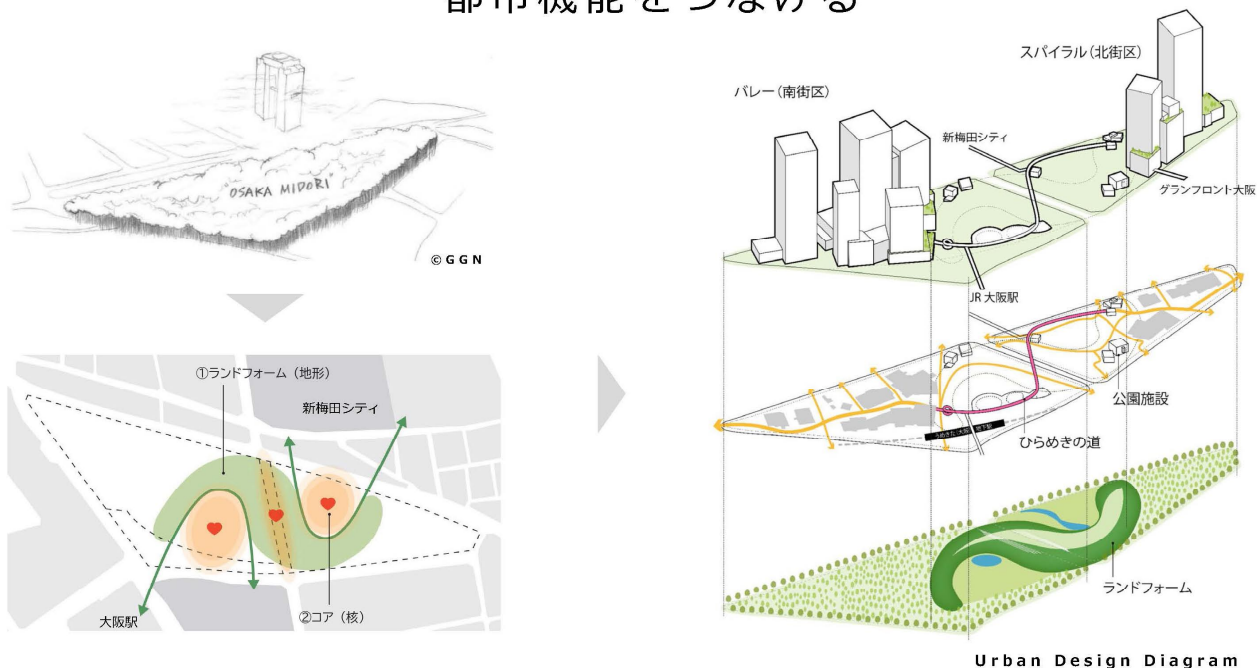
ご講演では、JR大阪駅前に誕生した約4.5万㎡の都市公園を中心とした複合開発エリアにおいて、民間開発と都市公園整備が一体で設計された経緯やその意義、「都市における緑の再構築」を目指すコンセプトについて、図やデータを交えて丁寧にご紹介いただきました。

特に、開発全体のランドスケープにおいて「緑」が重要な設計要素として統合されていることについては、今後の都市整備のモデルともなり得る視点でのお話が印象的でした。

また、緑の環境価値を「温室効果ガスの削減」「樹木による空気浄化」「温熱環境の改善」「生物多様性の促進」「雨水流出の抑制」の5つの指標で可視化する「みどりのものさし」は、緑地の役割を“見える化”し、社会的に評価する先進的手法として注目されています。こうした取り組みは、持続可能な都市づくりにおいて、政策立案や説明責任の強化にも貢献することが期待されます。

参考:「みどりのものさし」による「グラングリーン大阪」の環境価値の可視化について
https://www.nikken.co.jp/ja/news/press_release/2024_07_17.html
https://www.nikken.jp/ja/dbook/midori_no_monosashi/#page=1

ひとつながりの地形が周辺街区に開き 都市機能をつなげる



3つの居場所を生み出すランドフォーム

NIKKEN

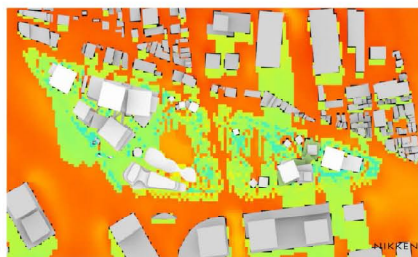
日建設計

左上：ファーストコンセプトスケッチ (GGNによる)。全体が一つの潤った緑の大地
左下：大阪駅側…南公園。梅田スカイビル側…北公園。道路で南北に分断される…ランドフォームでつなぐ
右側：3つのレイヤーで構成

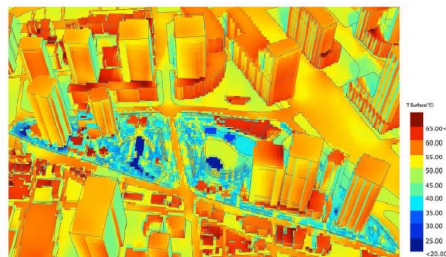
①現計画



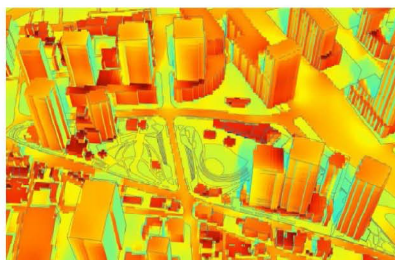
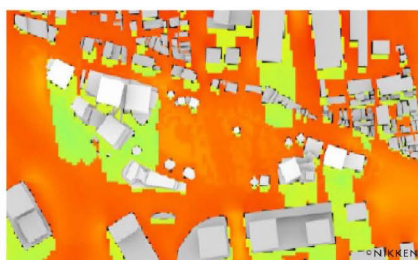
体感温度 (7月25日 15時)



表面温度 (7月25日 15時)



②高木と水面がないシナリオ



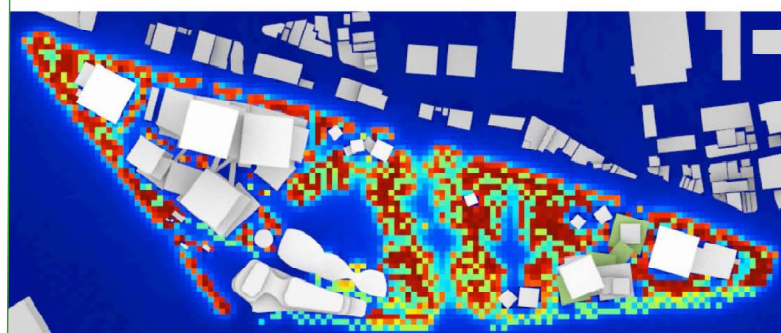
* グラングリーン大阪の敷地内の緑を評価しており、周縁部の緑化等の状況は考慮していません。

NIKKEN

日建設計

温熱環境の改善の可視化

9割以上の高い緑視率



ある地点から緑の見える割合を算出
見上げたときに全てが緑の場合は1
全てが緑以外の場合は0をとる

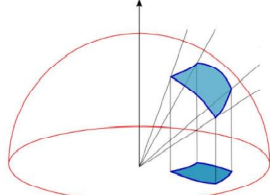
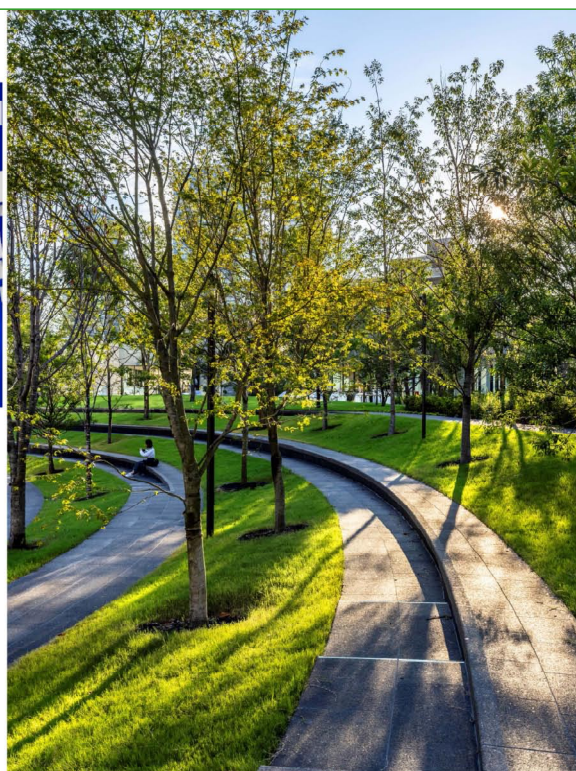
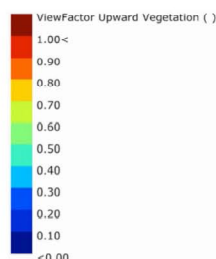


図2-3-18 緑の見える割合算出方法
出典: Nusselt analog

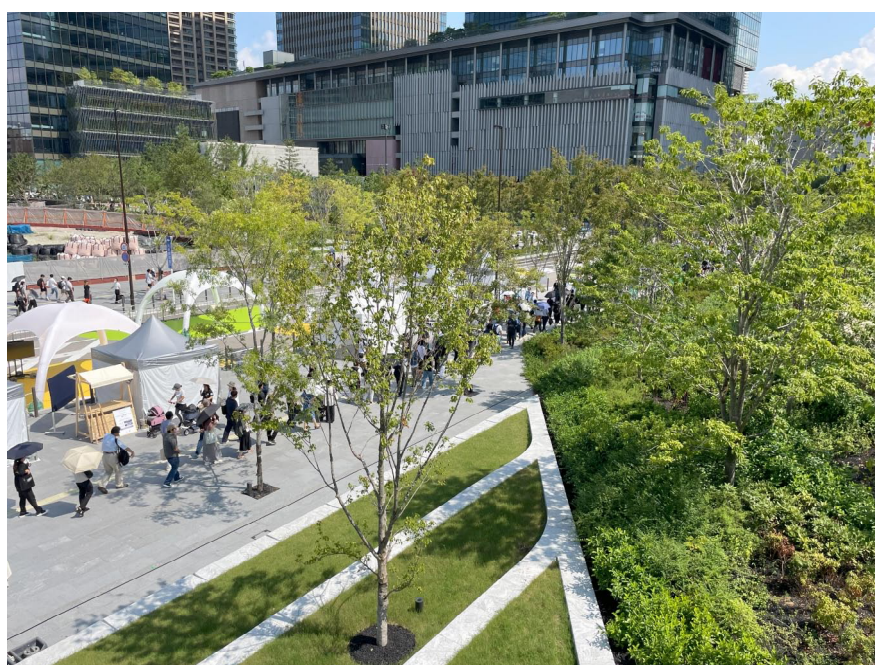
NIKKEN



緑視率の可視化(森林浴効果の見える化)

質疑応答では、「評価指標を行政計画へどう活用できるか」「緑視率と心理的効果の関係は」といった質問が寄せられ、小松氏からは経験に基づいた具体的かつ示唆に富む回答をいただきました。

都市の回遊性やにぎわい創出との関連にも議論が及び、この手法の多面的な可能性が改めて認識される機会となり、当協会が進めるアーバンフォレスト戦略の社会的理解を深めるうえでも、「みどりのものさし」による価値の可視化は大変参考となりました。



事業委員会では今後も、都市と緑の関係を再構築する取り組みを支援
すべく、知見の共有と情報発信を進めてまいります。

倒木落枝樹木の調査について

事業委員会 本山 圭一郎

最近、街路樹等の倒木や落枝による事故をニュース等で目にする機会が明らかに増えており、樹木への関心度の高さと重大な事故が増加傾向にあることを実感しております。

記憶にも新しいですが、昨年(2024年)、東京都日野市で落枝による痛ましい事故が起きました。樹木を管理する立場からすると身につまされる思いとともに、事故の原因の究明がやはり必要だと感じました。

事業委員会では、重要な倒木落枝事故の調査を行い、原因等を考察した調査結果を会員の皆様に情報発信し、今後の樹木診断及び適正な維持管理に役立てていただきたいと思います。

また、調査を進めていくにあたって、倒木や落枝した樹木の近くに所在する会員の方々にもご協力をお願いすることがあるかと思います。その際は、出来る範囲で構いませんので、お力添えいただけますと幸いです。



倒木・落枝被害樹木調査票(案)

調査日		年 月 日		調査者		
路線・測点名						
住所・地先名						
倒木・落枝被害樹木概要	発生年月日	年 月 日 午後 時 分頃				
	樹種名	樹木番号		不明		
	形状寸法	樹高H m	幹周C cm	枝張W m	根元周 cm	
	植栽地の構造	植栽地の形状 L m × W m				
樹木の被害状況	支柱の規格	支柱の状況、損傷				
	根返り	☐ 根鉢高H m	根鉢径φ m	根系の長さL m		
	地際幹折れ	☐ 根元径φ m				
	上部幹折れ	☐ 幹折れ高さH m	幹周φ cm			
	枝折れ	☐ 枝折れ高さH m	cm	長さL m		
	倒れた方向等					
交通、周辺等への影響						
緊急措置対応						
本格的措置方針						
過去の樹木診断		☐ 診断年月 年 月 ☐ 未実施				
被害への想定される影響	台風、強風等による影響	強風種類	☐ 台風第 号 ☐ 強風 ☐ 突風 ☐ 竜巻			
		接近した日時	年 月 日 午後 時			
		最大風速	m/sec	気圧	hPA	最大降雨 mm/h
	植栽基盤による影響	植栽帯の大きさ				
		土壌の状況				
		事故等による影響	事故内容			
	通報					
その他						

被害箇所調査票・被害樹木写真・考察等

被害箇所断面調査	幹折れ箇所	☐ 地際 ☐ 地際以外での幹折れ箇所	高さH m	☐ 断面調査未実施
	断面腐朽空洞率	☐ 地際 % ☐ 幹折れ箇所 %		
調査所見				
被害樹木写真・位置図等				
倒木・落枝事故原因の考察等				

倒木・落枝樹木調査票様式の例(表面・裏面)

第3回 アーバンフォレスト写真コンテスト 報告

4月1日から6月30日にて、第3回アーバンフォレスト写真コンテスト<樹姿の部>を開催しました。過去2回の開催では多くのアーバンフォレストの事例が集まり、アーバンフォレストとはどのような風景なのかが目に見えて分かるようになりました。一方で、協会員からは、都市部の樹木剪定を行っていく上で、樹種ごとの理想樹形が分からないという意見もありました。その意見を踏まえ第3回写真コンテストは、「樹姿」に焦点をあてた開催としました。

今回の開催期間中は週末に天候が崩れることが多く、撮影には苦労されたのではないかと感じます。そのような中、皆様ご応募いただきありがとうございました。厚く御礼申し上げます。



7月中に厳正な審査を行い、受賞者を発表する予定です。応募作品写真についても8月中に公表を予定しております。都市樹木の魅力向上に向けて参考にいただければ幸いです。

(広報委員会副委員長・石田浩之)

都市の木を診るチカラ：人とAIの協働の将来

永石 憲道(関東支部/JR東日本コンサルタンツ(株))

都市の緑と安全を守る都市樹木診断は、欧米由来の科学的手法と日本独自の樹木医制度の定着を経て、特有の進化を遂げてきました。この診断技術は、気候風土や社会システムに適応した改良が加えられ、国際的にも注目されています。

特に、モンスーン気候のアジア諸国では、気象災害への危機意識から、日本からの技術導入への関心が高まる可能性があります。個々の樹木情報を記録する「診断カルテ」のシステム化や多様な診断機器の活用は、一部、英語圏を凌駕する水準にあり、その象徴が「樹木診断保険」です。この保険制度は日本では運用が進む一方、アメリカでは近年ようやく検討が始まった段階であり、先進性を示しています。

技術革新は樹木点検の初歩段階に及び、AIを用いた樹齢推定アプリの登場は市民参加を促し、広範囲なデータ収集を可能にしました。これは予防管理やリスク対策に貢献しますが、AIには限界もあり、土壌条件や微細な欠陥など複合的要因の判断には専門家の介助が不可欠です。

さらに、ドローンや衛星による広域の樹木形状情報の把握、音波や電波を用いた内部診断技術の再進化の可能性(波動散乱の逆問題の解)、疫病の迅速な即時判定法などで基礎部分での開発が進んでいます。

今後の都市樹木管理は、従来の緑の量や配置に加え、樹木の状態・質、市民意識、交通データ、時代経過などを統合した大規模モデルの構築が期待されます。しかし、どれほど技術が進歩しデータが蓄積されても、最終的な判断を下し適切な処置を決定するのは、人間の知恵と経験に基づく洞察力であることに変わりはありません。

(この文章は複数のAIに補助してもらいました)



私たちの失敗談と「がもしれない診断」

平川 法義(関西支部/環境設計株式会社)

私たち(協力者含む)は毎年、樹木診断を行っており、私が始めてからはや10年超となりました。当初は、診断経験ゼロかそれに近い樹木医が幾人かおり、大小様々な失敗があり、言語道断ですが、診断した数万本の中には、1年程度以内に倒木等が発生した樹木が数本ありました(私が確認できた中で)。伏せたい過去ですが何かの足しになるかと考え、恥を承知で紹介させていただきます。

①分岐部異常によるもの：分岐部の断裂による倒木が2例あり、共に診断では軽微な入り皮と判定されていました。しかし、1例では断裂部には楔状の腐朽があり、分岐角度がやや大きいものでした。分岐部上部の小さな腐朽を見落とさないことが大切であるということです(鋼棒等を使用しての確認 ※径のなるべく小さいものを使用)。

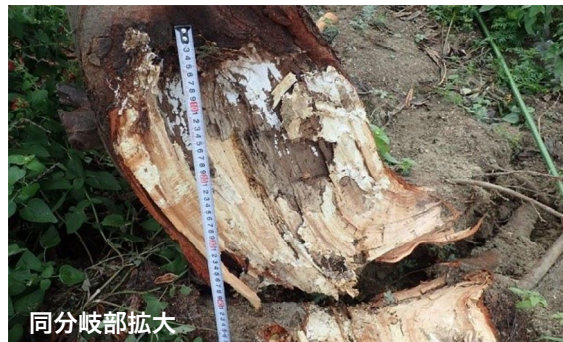
②腐朽の過小評価によるもの：適切箇所(腐朽が最大化している箇所)でレジ計測がなされておらず、腐朽割合が過小評価されてリスクが見過ごされ、その後倒木となったものが2例ありました。これとは逆に、レジ計測後の判別で健全箇所を腐朽とみなし、結果的に必要以上の伐採が行われてしまった事例が数例ありました。これは樹種特性・貫入抵抗値の特性等を正しく把握できていなかったためでした(伐採後の切り株検証で判明)。

レジ計測を行うと数値(t/R率、腐朽割合)が得られることから、数値の過信(基準内の数値のため危険ではないとの判断)を生むことがあります。しかし、不適切箇所で測定した場合は、リスクを過小評価し、倒木リスクを見逃すことにつながります。

これらの数々の失敗を経て、『「倒木するかもしれない」リスクが「高くない」』と言い切れるよう、知識と経験をアップデートしながら、「かもしれない診断」を心がけて現場で悩み続けながら診断しています。



分岐部から倒木したフサアカシア(上部処置後)



同分岐部拡大

アーボリカルチャー研修会

三宮 洋(九州支部/三宮造園(株))

約10年前より毎年2回、福岡県筑後市でアーボリカルチャー研修会を開催しています。講師は日本のトップクライマーの一人であり、本協会賛助会員の(株)アーバンフォレストリー吉見次郎さんです。研修日程は春季にロープクライミングテクニック3日間、リギングテクニック3日間、秋季にチェーンソーテクニック3日間、レスキュー1日間です。

ロープクライミングは、欧米を中心として発達してきたロープを用いた木登り作業手法であり、特に高所作業車やラフテレーンクレーン等が進入できない現場において有効な作業技術です。またリギングは、ロープクライミングによる枝下ろしや荷の移動、吊るし切りや伐採に関わる作業手法です。

屋内研修では、ロープや装備、また力学的なことを学び、屋外研修ではロープを使って木に登ります。実際に3日間で登れるようになります。私も数年前に受講しました。やはり従来の木登り手法とは違い、ロープに体重を乗せる、すなわち命を預けるというのは怖くてなかなかできません。特に5~6mの高さは地面が良く見え非常に怖い! 20mぐらいになると枝葉で下があまりよく見えず逆に怖くない(笑)慣れてくると樹上からの景色、風が気持ちいい! 今年は還暦を迎えるので、さすがにあまり登ることはありませんが、もう少し若い時に受講しておけば良かったな、と思います。

3年ほど前に、「樹上作業の安全および技術向上」を目的とし、(一社)日本樹上作業協会(以下、協会)が設立され、協会主催で研修会を開催し、微々々力ながらお手伝いをしています。毎年2回、吉見協会代表をはじめ、協会の方々との研修会、懇親会が楽しみになっています。秋季の研修会が待ち遠しい。

ご興味のある方は、是非参加されてみてはいかがでしょうか? 樹上からの景色、最高ですよ。



屋内研修



屋外研修

各委員会の活動報告(2025年1月～6月)

事業委員会

委員長：野上一志 副委員長：當内 匡
委 員：宇田川 健太郎、番場 幸広、本山 圭一郎、安田 卓宏

事業委員会では、定例会議を月に一度オンラインにて開催しており、年度事業計画の各項目について担当別に遂行しながら、全体協議が必要な事項について方向性の確認と調整を行っております。

2月26日には、TKP品川カンファレンスセンターにて、i-Tree開発者の平林聡氏を講師に迎え、「i-Tree Eco使い方実践講習会」を開催しました。1名30,000円という参加費ではありましたが、開発者直々の講習であり、参加者の満足度も非常に高いものでした。

また、4月25日には、明治神宮にて第3回アーバンフォレスト優良事例見学会を開催しました。現地参加者24名、リモート参加者6名となり、こちらも、回を重ねるごとに参加者が増えており、地道な事業ではありますが今後も継続して開催したいと考えております。

〔活動内容〕

- 1月30日(木) 第5回事業委員会(オンライン開催)
- 2月26日(水) i-Tree Eco使い方実践講習会
- 4月16日(水) 第6回事業委員会(オンライン開催)
- 4月25日(金) 第3回アーバンフォレスト優良事例見学会(明治神宮)
- 5月16日(金) 日本造園学会ポスター発表(アーバンフォレストに関する共同研究事業)「京都と北九州におけるケヤキ街路樹の生育状況と生態系サービスに関する比較分析」
- 5月20日(火) 令和7年度 国土交通大学校 専門課程 公園・緑化研修 講師派遣
(公園施設における植栽の点検)
- 5月27日(火) 第7回事業委員会(オンライン開催)
- 5月30日(金) アーバンフォレストを掘り下げるwebセミナー #8
「都市の緑をもっとスマートに:DXで進化するアーバンフォレスト管理」
- 6月 2日(月) 欧州アーバンフォレスト視察とEFUF2025参加(6/6まで)
- 6月25日(水) 第8回事業委員会(オンライン開催)

技術委員会

委員長：石井 匡志
委 員：岩熊 直樹、小島 和夫、高田 恵一、堀内 大樹

技術委員会では、オンラインによる委員会を実施しました。また、切断された根系と発根量の関係について、福岡県久留米市の真砂土と富山県富山市の黒ボク土・山砂の影響について調査を開始しました。久留米では内山緑地建設株式会社様、富山では株式会社野上緑化様にご協力いただきました。

〔活動内容〕

- 2月 5日(水) 技術委員会(オンライン開催)
- 4月 2日(水)～ 3日(木) 根系調査(内山緑地建設(株)圃場)
- 4月22日(火)～23日(水) 根系調査((株)野上緑化圃場)

広報委員会

委員長：萱森 雄一郎 副委員長：石田 浩之
委 員：伊東 麗子、向山 直宏、吉田 敦、岸 みずほ、福留 ユーサ

各委員会との連携強化を図ることで、活発な動きとなってきています。広報委員会では3年ぶりに第3回アーバンフォレスト写真コンテスト＜樹姿の部＞を開催しました。さらに、樹冠被覆率の説明を含む2本のミニ動画を公開し、幅広い広報活動を行いました。

2027年3月から9月に横浜市で開催予定の2027年国際園芸博覧会に向けて、「GREEN×EXPO 2027全国連携プログラム」の申請を行い、ロゴマーク使用認定の授与をうけて、ホームページ上の各種イベントに掲載を行い、機運醸成に寄与しました。今後の活動では、診断技術にかかわる情報を段階的に掲載していきます。

運用面では、ホームページリニューアル直後のページ閲覧数839、ユーザー数79に対し、4月末時点でページ閲覧数5,749、ユーザー数1,047となり、堅調に推移しています。

〔活動内容〕

- ・ 定例会オンライン開催：全5回(2/18, 3/18, 4/22, 5/27, 6/24)
- ・ 会報(GAISHIN NEWS)の発行：第18号(1/1)
- ・ GREEN×EXPO 2027全国連携プログラムの申請(認定を受けて3/19ホームページへロゴマークの掲載2件)
- ・ 25周年記念誌をホームページ上に段階的に公開(今期中で完了予定)
- ・ 第3回アーバンフォレスト写真コンテスト＜樹姿の部＞の開催(4/1～6/30)
- ・ 販促活動動画掲載企画：アーバンフォレストミニ動画公開(2件)

街路樹診断士認定委員会

委員長：有賀 一郎 副委員長：山下 得男
委 員：坂元 博明、三宮 洋、水野 優

街路樹診断士認定委員会は街路樹診断士の新規認定と更新認定を行っています。両者は基本的には同じ仕組みで進めています。

新規認定を例に説明すると、①新規認定講習実施の通知、②募集、③申請書の提出、④申請書の審査、⑤オンライン・オンデマンド講習と試験、⑥審査、⑦各支部で実施する実地研修・試験と審査、そして⑧合否通知です。更新認定の場合は、⑦各支部で実施する実地研修・試験と審査はありません。

2023年度には、「街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会」を立ち上げ、テキストの改訂を行いました。テキストの改訂に伴いオンライン講習の動画も改編しました。新テキスト発行後からは、新規認定も更新認定も、新テキストと新講習動画を使用しております。

2023年12月からは、更新認定のオンライン講習を、忙しい年度末と重ならないよう、前倒しで冬休みに行えるように改善し、好評です。

なお、街路樹診断士が社会の中で認められるようになってきたことから、街路樹診断士新規認定・更新認定の審査では、資格認定厳格化を継続しています。

〔活動内容〕

2024年12月11日(水)～2025年1月15日(水)

令和6年度 街路樹診断士オンライン更新講習【12動画全視聴 計8時間】

1月15日(水) 令和6年度 街路樹診断士オンライン更新講習 申請書受付締め切り

2月28日(金) 街路樹診断士認定委員会

(その後、数回の更新申請審査メール会議、審査結果確認・再提出検討)

3月13日(木) 更新認定合否通知(1回目)

4月 1日(火) 更新認定合格通知(2回目)

4月 1日(火) 令和6年度 街路樹診断士更新認定 認定書発行

6月23日(月) 第15回 街路樹診断士新規認定 募集開始

支部・本部の動き

2025年1月～6月

関東支部

【支部事業委員会】

国土交通大学校 令和7年度専門課程 公園・緑化研修に講師派遣 ※(一社)日本造園建設業協会との連携事業

日時：5月20日(火)

講師参加者：野上・帳山((株)野上緑化) 大島・高田((株)エコル)

【今後の予定】

7月中旬に関東支部連絡会議を開催する予定です。目的は、予算消化状況及び受注状況等の報告。同時に、技術研修会として「(仮称)VTA検討会」を開催予定。(リアル・オンライン併用)

関西支部

【支部総会】

1月30日(木) 関西支部総会

上杉会長にもご参加いただき、総勢13名で、本部の動き、支部の活動等について報告、検討を進めました。

【研修事業】

大阪府職員対象研修会

大阪府都市整備部公園課からのご依頼で、若手技術者の育成の一環として、大阪府職員および市町村職員を対象に、街路樹管理技術基礎研修への講師派遣を行いました。

- ・日時：1月16日(木) 13:30～17:00
- ・場所：千里中央公園 豊泉家千里体育館会議室
- ・研修参加者：大阪府都市整備部の技術系職員20名程度、市町村の技術系職員15名程度
- ・研修内容：危険木診断技術講習および危険木診断技術実習
- ・講師：笠松、堀内、中島、藤原

【その他】

- ・各自治体へのPR活動を引き続き実施中です。
- ・神戸市より、市内の街路樹のすべてを対象とした診断業務の検討についてご相談を受けていましたが、工期、コストなどの問題があり、当協会の関与は難しいという結論に至りました。今後の各自治体への対応については、多くの課題が残りました。

訃報

関西支部の元支部長である中島洋一さんが3月に急逝されました。中島さんは、樹木医の3期生で早くから樹木医活動を行われ、当協会関西支部設立時から多くの活動にご貢献いただいていた。関西支部にとっても重要な人材を失いました。ご冥福をお祈りいたします。

九州支部

【支部幹事会】

第2回 幹事会

日時：2月28日(金)16:00～17:45

場所：オンライン開催(Zoom会議)

第3回 幹事会

日時：4月28日(月)16:00～17:30

場所：オンライン開催(Zoom会議)

【診断事業】

福岡市街路樹診断機器調査業務

発注者：(一社)福岡県樹木医会

件名：令和6年度 街路樹調査に伴う機器調査業務

期間：2025年1月から2025年3月まで

業務概要：機器調査ピカス 45断面、機器調査レジストグラフ 62断面

【広報活動】

(公社)福岡県造園業協会機関紙 エバーグリーン リレー掲載 2025年1月 55号
「第33回 都市における樹木との共生」 嶋田 新奈

本部

【街路樹診断協会名称変更及び街路樹診断士運営検討特別委員会】

第1回 街路樹診断協会名称変更及び街路樹診断士運営検討特別委員会

日時：2月17日(月) 14:00～15:00

場所：TKP品川カンファレンスセンター(港区高輪3丁目25-23 京急第2ビル) リアル・リモートハイブリット開催

第2回 協会名称変更及び診断士運営検討特別委員会 (カリキュラム検討分科会)

日時：6月16日(月) 15:00～18:00

場所：街路樹診断協会会議室 リアル・リモートハイブリット開催

第3回 協会名称変更及び診断士運営検討特別委員会

日時：6月23日(月) 15:00～18:00

場所：TKP品川カンファレンスセンター リアル・リモートハイブリット開催

【理事会】

第3回理事会

日時：6月23日(月) 15:00～18:00

場所：TKP品川カンファレンスセンター リアル・リモートハイブリット開催

【常任理事会】

第2回常任理事会

日時：2月17日(月) 15:00～18:00

場所：TKP品川カンファレンスセンター リアル・リモートハイブリット開催

【今後の予定】

- ・9月 17期 第1回常任理事会
- ・10月 17期 第1回理事会
- ・10月下旬 第17回定時社員総会

■編集後記

このたび広報委員会のメンバーに加えてさせていただきました。(株)富士造園の岸と申します。私は普段、都内での公園やマンション管理・街路樹の樹木診断等を行っています。

昔でしたら30℃を超えれば暑い日だと感じていましたが、昨今ではその四季さえ感じづらくなり、極寒か酷暑かの2つの季節しか感じないように思えます。一昨年の夏ではほぼ雨がなく、公園の樹木の葉が焼けて茶色に変色していた場所が多く見受けられました。しかし昨年の夏は雨が降ったり、止んだりの繰り返しで葉が多く展開し公園を覆うほど大きくなっており想像以上の成長ぶりでした。天候でこんなにも樹木の葉の成長が左右されるのだなと改めて思いました。今号の記事が、皆様の日々の活動の励みとなり、さらなる技術革新や安全・美観の実現に向けた一助となれば幸いです。これからも、最新情報の共有と、会員間の信頼あるネットワーク作りを推進してまいります。今後ともよろしくお願い致します。

岸みずほ

一般社団法人 街路樹診断協会

関西支部

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-8-14 (株)日比谷アメニス内
TEL・FAX:06-6444-3990

九州支部

〒808-0124 福岡県北九州市若松区大字安屋900番地11
一般社団法人 北九州緑化協会内
TEL・FAX:093-741-0022

北陸連絡事務所

〒939-8253 富山県富山市新保271 (株)野上緑化内
TEL:076-429-1310 FAX:076-429-4374

台湾連絡事務所

一般社団法人 街路樹診断協会 台湾籌備處
台北市大安區四維路176巷2號1樓
TEL: +886 02-2325-6911

※7月下旬に、本部および関東支部は移転する予定です。移転先は改めてお知らせします。